

ながたに暮らし体験記

“来ちみなあ”と声かけられて

●「来ちみなあハウス」の思い出

初めて「来ちみなあハウス」にお邪魔させていただいたのは、平成 29 年 11 月での私のコダワリトークでした。当時は知名度の低かったエコパークについてお話させていただき、嬉しかったことを覚えています。トーク後は皆さんと杯を交わしながら親睦を深めさせていただきました。

その後も、お花見に招いていただいたり、植物観察会を開いていただいたりする中で、「柴北川を愛する会」の皆さんの地域を愛するお気持ちに接して、益々長谷が好きになりました。

4 月より歴史民俗資料館に異動になりました。仕事では勿論ですが、それ以外でもお邪魔させていただきますので、宜しくお願いいたします。

(豊後大野市 社会教育課 神志那 庸一)



●長谷、大好き!

初めて「来ちみなあハウス」に足を運んだのは、後藤聡美(旧姓:関根)さんの「コダワリトーク」の時でした。初めての参加でとても緊張していましたが、長谷地域の皆様の温かさやアットホームな雰囲気がとても心地よく感じたことを覚えています。

また、昨年 8 月には「親子植物観察会」の講師もさせていただきました。豊かな自然と皆様の温かい心であふれている長谷地域が大好きです。

(地域おこし協力隊 隊員 岩里 実季)



●3年間の思い出

来ちみなあハウスで最初に会議を行ったのは平成 28 年 7 月。あれから約 3 年経ちました。

3~4 か月に 1 回の「愛する会」の皆様との会議では、ハウスの DIY、貸農園、ぶんごる食堂の開店、新長谷探検隊など活発な議論がされました。「私のコダワリ」トークでは多くの人と新しい交流もありました。

まだまだたくさんの方がいますが、「ながたに振興協議会」の事務所に引き継いで実現できればと思います。3 年間ありがとうございました。

(共助研 柴北川 P ジェ外リターゲ- 森脇 亨)



●フォーエバー「来ちみなあハウス」

ご近所さんが誰でも立ち寄れる小さな拠点にしたい、という想いからスタートした「来ちみなあハウス」。“これからどんなふうになっていくの? 和風ベースのおしゃれなカフェ風がいいな”と、ピフォー・アフター的な夢が膨らんでいました。

まだ何も変わってなかったけど、とにかく一泊のチャンスが訪れ、女性でも宿泊利用可能ということを確認しました。若い地元の女性が引き続きご利用されるとのことで、逆に嬉しい結果となった気がします。

(共助研 柴北川 P ジェ外リターゲ- 石橋 美樹)



第 9 回「私のコダワリ」トークの予告

●次回は、6 月下旬に、長谷地域近辺で地域づくり活動を行っている方によるコダワリトークを予定しています。

●場所は、「ながたに振興協議会」です。皆さん、気軽に立ち寄ってみてください。

和やかな雰囲気のコダワリトークの様子 ▶



2019 年 4 月 15 日発行



来ちみなあ 21号

(新旧の店子でハウスの引継ぎ)

「来ちみなあ」の心を新しい活動拠点へ

平成 28 年 8 月、柴北上の加藤邸を借家して、地域内外を問わず気軽に“来ちみなあ”と呼びかける「来ちみなあハウス」を開設。それから約 3 年間、このハウスは長谷地域皆さんの交流の場として、また「柴北川を愛する会」及び「共助研」の活動拠点として活用されてきました。

一方、このハウスでの活動と同時並行的に「ながたに振興協議会」の活動が活発化する中、その拠点となる旧長谷幼稚園施設の設備改良工事がこの 3 月で完了しました。

この振興協議会施設の充実化を機に、4 月から「来ちみなあハウス」の役割を振興協議会施設に移すこととし、同ハウスは「平成」の年号が終わる一月前の 3 月 30 日に店じまいしました。

この 3 年間、「来ちみなあハウス」建物を快く貸与していただいた加藤久さんには、厚くお礼申し上げます。

本号では、地域内外の方々から、これまで「来ちみなあハウス」で培われた“来ちみなあ”のおもてなし心や交流体験など、そしてこれからの活動について感想を寄せていただきました。

これからも、この“来ちみなあ”マインドを持って、長谷地域の拠点としての「ながたに振興協議会」を盛り立てていきましょう。

「来ちみなあハウス」での活動を紹介してきた本通信も、この 21 号をもって終了します。これまで、ご愛読いただきありがとうございました。

(「来ちみなあハウス」管理人: 渡邊 雪法・波木 健一)

…上の写真の左側二人が管理人でした。が、よくわかりませんか?

(地域の拠点「ながたに振興協議会」満開の桜と)



ながたに風

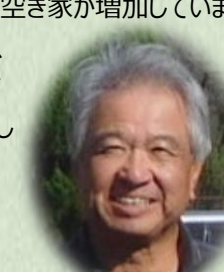
いつでも、長谷に“来ちみなあ”!

● 交流の輪も広がり、長谷の素晴らしさを再認識。

長谷地域はもとより、豊後大野市全体において、人口減少による空き家が増加しています。「来ちみなあハウス」は「柴北川を愛する会」が交流の拠点と考え、また空き家の活用や地域の活性化に繋がればとの思いで利用させて頂きました。交流の輪も広がり、柴北川を始め長谷の自然の素晴らしさを再認識するいい機会を外部の人から教えられました。

「ながたに振興協議会」の拠点整備が完了し、宿泊施設や一時避難所施設ができることから、今後は「柴北川を愛する会」を始め、各団体の利用受け入れが可能となりました。これからは、長谷地域全体の拠点としての役割を「来ちみなあハウス」から引き継げればと考えます。

(ながたに振興協議会 会長 赤峰 映洋)



● ハウスでの活動を、引き続き振興協議会で。

「来ちみなあハウス」閉鎖は残念ですが、場所を「ながたに振興協議会」の拠点に移して活動は続けられるということなので、安心しました。

紙面をお借りして、振興協議会が定期的に行っている行事を紹介させていただきます。

- ① ながたに歌ごえ体操教室 毎週火曜日 9:30~
第 2 火曜日 体操後、歌の講師による歌ごえ教室
第 3 火曜日 体操後、昼食会と午後から「カラオケを楽しむ会」
- ② パソコン教室 毎週第 3 木曜日 13:00~
- ③ その他の 2019 年度活動予定

・史跡巡り
・親子植物観察会(柴北川を愛する会主催)
・大分県「里の暮らし事業」今年度も 400 万円の事業費で拠点整備皆様のご参加を、お待ちしております。(ながたに振興協議会 地域支援員 甲斐 照昭)



●「私のコダワリトーク」では楽しく交流。

活動の拠点としていた「来ちみなあハウス」を返還することになりました。

片づけと清掃の呼びかけをしたところ、多くの参加をいただききれいになりました。作業中、壁に貼られた「来ちみなあ通信」が目にとまり、手を休め少し読みました。「私のコダワリトーク」には「共助研会員」「市職員」「地域おこし協力隊員」「元長谷探検隊員」等から講演をいただきました。その後の懇親会で楽しく交流でき、地域活性化にも大きく貢献できたのではと思います。

活動の拠点がなくなるのは寂しいことですが、振興協議会が使用できますのでそちらで活動を続けたいと思います。後の借主さんも若い人が決まり、安心しました。家主の加藤久さんには、感謝申し上げます。(柴北川を愛する会 会長 穴見 純一)



● もう少しレディースの腕をふるってみたかった。

「来ちみなあハウス」閉鎖を聞いた時に真っ先に浮かんだのは、あれだけの家具や食器類をどう処分するのだろうかということでした。中には「共助研」の皆さんが福岡から運び込まれた物もあり、また、福岡まで持って帰るのだろうか? 等々。

然し、杞憂に終わりました。幸いにも次の借り主が見つかり、殆どの家具類を引き受けて下さることになり、ほっとしました。ガスコンロやトースター類は「ながたに振興協議会」の備品として、食器類の大半は「ハイツエイブル」さんに引き取っていただきました。

「台所で、もう少しレディースの腕をふるってみたかったなあ」と、最後の掃除をしながら思いました。(柴北川レディース 会長 甲斐 能美)

